

# 鹿児島県民の魚の消費を向上させよう

鹿児島中央高校 池田愛里 藤田琴音 中島凜 大渡綾奈 松山月菜

## 研究動機・研究背景

鹿児島は海に囲まれ、漁港も多く、かつおやぶりなどが多く獲れる。しかし、2024年の魚介類の消費量は全国49位(県庁所在地と政令指定都市5都市のうち)となっている。

そこで鹿児島県の魚介類の地産地消の増加を目標とし、どのようにすれば魚介類の消費量を増加させられるか研究しようと思った。

## 研究目的

鹿児島県の主要死因のSMR(標準死亡比)に基づく、急性心筋梗塞といった循環器疾患による死亡率が高く、これらは老化や高血圧・喫煙・肥満・糖尿病など全身血管の動脈硬化をきたす疾患が原因である。

また、日本動脈硬化学会によると、脂質異常症の治療の一つとして、不飽和脂肪酸を多く含む魚類の摂取を増やすことを勧めている。

鹿児島県は多くの漁港があり、ぶりやかつおなどがよく獲れる。漁獲量も全国トップクラスであるのに対し、魚介類の消費量は全体的にあまり多くない。特にぶりは鹿児島県が養殖ぶり漁獲量日本一であるのに対し、消費量は全国29位となっている。

魚の消費量を増やすことにより、県民の健康増進に貢献できる

## 研究方法・結果・考察

### 調査目的

魚の消費を促すためには、どのような方法が効果的か？消費を促す方法として、スーパーでの購入量を消費量とほぼ同じと考えて、実験を行った。地産地消を踏まえて、魚のターゲットを**ぶり**とした。

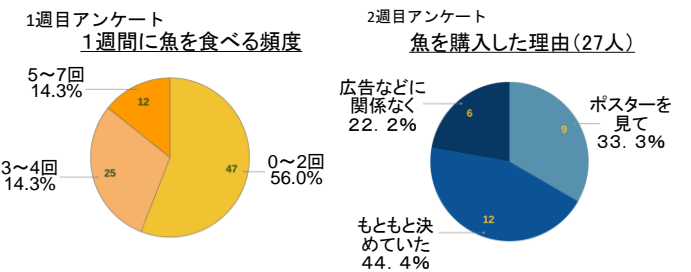
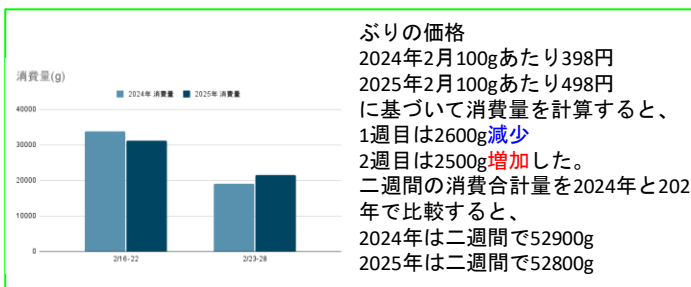
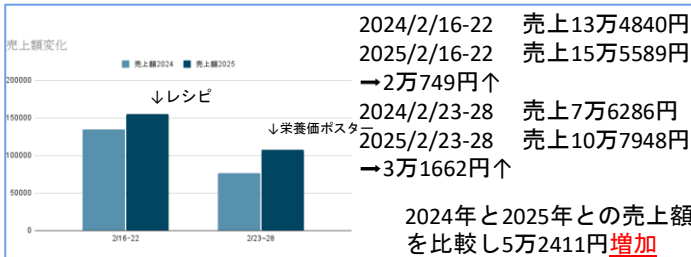
### 研究方法

- 自分たちで作成したブリを使った料理のレシピとアンケート(週に何回魚を食べますか?)を近くのスーパーに1週間掲示してもらった。
- 自分たちで作成したブリの栄養価についてのポスターとアンケート(魚を購入した理由について)を同じスーパーにまた1週間掲示してもらった。
- それぞれ1週間ずつの売上を出してもらい、昨年と同じ週の売上と比べた。(コープ城西店での協力)



2週目栄養効果、アンケート

## 結果



## 考察

2024年と2025年を比較して、ぶりの値段が高騰したにも関わらず売上が増加し消費量は昨年とほぼ変わらない結果になったことから、健康情報とレシピの提供により消費の意欲を高めることができたと考えられる。

## 結論・今後の展望

ぶりの価格は高騰したが、消費量は増えていることにより、ポスターによって消費を促せたのではないかと考えられる。また、2週目のアンケートで、魚を購入した理由として栄養価ポスターを見て、ぶりを購入した人が33%いることにより、栄養価ポスターがぶり消費に貢献できたことがわかる。今後の展望として他の店でのぶりの売上を比較することによって、ポスターの効果の正当性をだすこと。価格の安い旬の魚の冷凍活用や調理方法を提供するなどの工夫が必要

## 参考文献

- 全国魚の消費ランキング2017 鹿児島42位 <https://todo-ran.com/t/kiji/21729>
- 全国漁獲量ランキング2021 鹿児島18位 <https://graphtochart.com/japan/world-quantity-of-catches2.php>
- 全国肥満型で中性脂肪が多いランキング 鹿児島3位 <https://prtimes.jp/main/html/rd/000000526.000036462.html>
- 県民の健康の状態 [https://www.pref.kagoshima.jp/ae06/kenko-fukushi/kenko-iryu/kenko/kagoshima21/gaiyou/documents/112574\\_20240430155920-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ae06/kenko-fukushi/kenko-iryu/kenko/kagoshima21/gaiyou/documents/112574_20240430155920-1.pdf)
- 鹿児島県魚介類消費量 鹿児島県/鹿児島市の生鮮食材の消費支出ランキング(全世界) [https://www.med.or.jp/dl-med/jma/region/dyslipi/ess\\_dyslipi2014.pdf](https://www.med.or.jp/dl-med/jma/region/dyslipi/ess_dyslipi2014.pdf)
- 日本医師会 脂質異常症のエッセンス